

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



1988. **S**

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO.51

日本野鳥の会 埼玉県支部



## 新役員紹介

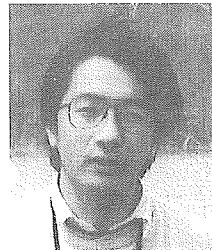
この5名です。いずれも探鳥会でよく見る顔です。活躍が期待されます。



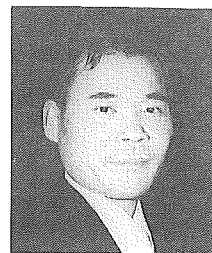
**岡安征也**（北本市）  
いつも愛妻といっしょ。独身者たちのスルドイ視線をあびながら、埼玉の中心は北本さ、まかせておきなさいとはりきっています。



**杉本秀樹**（杉並区）  
高円寺のムクドリが、なぜか埼玉。東京支部の谷津干潟担当リーダーとしても活躍中だが、県内に飛来するほうが多い。



**諏訪隆久**（熊谷市）  
学生っぽく見えるけど、立派な社会人。さだまさしみたいに見えるけど歌手ではない。その実体は、大麻生を縄張りとする鳥見人。



**林 滋**（美里町）  
阪東大橋下流の利根川河原に行くと、この人がいます。4WDの愛車を駆って、県南にもあらわれます。家族思いの良き父親です。



**横山みどり**（相模原市）  
埼玉の大学で学んだことは、野鳥。（とくに？）卒業したのに、埼玉の野鳥から別れられません。若いベテランです。

## 昭和62年度決算額と63年度予算額

### 収入の部

項目	62年決算額	63年予算額
繰越金	1,761,491	2,105,126
繰越在庫品	119,976	84,269
会費	1,501,500	1,600,000
寄付金	323,958	300,000
探鳥会等参加費	134,562	160,000
指導謝礼金	101,300	70,000
雑収入	61,413	50,000
事業部売上金額	979,001	900,000
事業部未払金	70	0
期末棚卸高	84,269	80,000
合計	5,067,540	5,349,395

### 支出の部

項目	62年決算額	63年予算額
什器備品	24,080	50,000
消耗品	3,700	10,000
支部報印刷費	792,000	860,000
印刷コピー代	122,000	120,000
支部報送送料	631,750	650,000
通信費	143,630	150,000
交際接待費	43,892	50,000
雑費	103,255	100,000
総務部費用	41,260	40,000
普及部費用	48,350	90,000
編集部費用	25,800	30,000
研究部費用	30,370	30,000
事業部仕入額	672,232	700,000
事業部費用	3,620	10,000
期首棚卸高	119,976	84,269
予備費	0	240,000
仮払金繰越分	72,230	70,000
繰越金	2,105,126	1,985,126
繰越在庫品	84,269	80,000
合計	5,067,540	5,349,395

## シロハラクイナとシロハラトウゾクカモメの観察報告

名前が多少似ていても、この両者は親戚でもなんでもなく、まったくのアカの他人。たまたま観察報告がかさなっただけです。  
(文責・海老原美夫)

### シロハラクイナ

本誌1988年4月号(第47号)『野鳥情報』欄でお知らせしたシロハラクイナについて、県支部会員・若松淳平さんの報告。「1987年12月27日(日)1人で蓮田市の黒浜沼にでかけた。コガモ、ハクセキレイ、コサギくらいしかおらず、午後2~3時ころ、カメラと望遠レンズはしまっ、もうかえろうと思っていた時、沼の西側の、枯れた葦などがはえている干潟に、1羽の鳥がいるのに気がついた。あ、きれいな鳥がいる、というのが第1印象で、どこかから飛んできたというより、物陰からあらわれたという感じだった。距離は20mくらい、そのときの天候は晴、順光状態だった。

いそいで8倍の双眼鏡で観察したところ、バンによく似た形と大きさで、額の赤い色と、

胸から腹の白色と背中中の黒色のコントラストがたいへん鮮やかで印象に残った。横向きであまり動かなかった。足とか下尾筒の色などは記憶にない。背中中の黒色はタゲリのような緑色の光沢があった。

10数秒くらい観察してから、撮影のためカメラを取り出そうと下を向き、視線を戻したときにはもういなかった。飛び去った様子はないので、多分また物陰に隠れたものと思う。結局写真撮影はできなかった。」

(シロハラクイナは中国南部、台湾からアジア南部に分布し、日本では沖縄と鹿児島で繁殖し、渡りの時期などには本州の新潟、大阪などでも観察されている。東あるいは北のほうでの観察例もふえているが、埼玉県内ではまだ記録されていない)

### シロハラトウゾクカモメ

1988年4月29日(金)午後11時ころ、浦和市の大久保農耕地(通称A地区)で観察され、写真も撮影された。

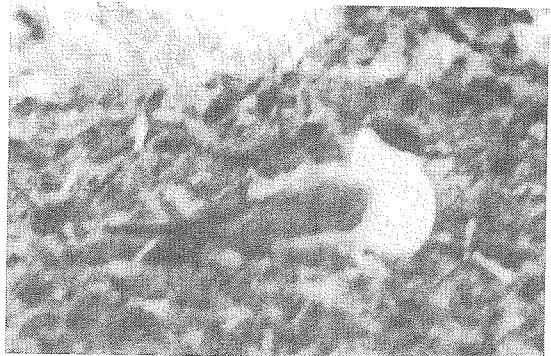
県支部会員・石井智さんの報告。「杉本秀樹・佐藤晶人さんと共にシギ・チドリ類調査中、数10m先の上空を飛んでいるのを発見して双眼鏡で観察、中央尾羽の長さ、翼の幅が狭いこと、翼上面に白斑が見えなかったこと、喉の黄色の下から胸・腹まで白かったことから、シロハラトウゾクカモメと判断した。当時の天候は時々小雨が降る曇だが、喉の黄色まで確認できた。一度大きく施回してから荒川方面に飛び去った。その間、約30秒。」

東京支部会員・清田潔さんの報告。「妻・洋子と2人で、田んぼの土の上にべたっとした感じですわりこんでいるのを発見、種名がわからないままに写真撮影(距離約30m、ニコン400・F3.5、KR64、開放・90分の1秒)した。発見から撮影・飛び立つまで10~15分くらい。その後埼玉県支部の上記3名に会い、シロハラトウゾクカモメだったと知った。

飛び去ったときもファインダーをのぞいて撮影しようとしていたので、尾羽の長さなどは確認できなかった。」

(シロハラトウゾクカモメは春に太平洋岸の沖を北上するが、1979年4月には東京都多摩湖で記録されたこともある。

県内では低気圧が通過したときなどに大久保農耕地などで数回目撃されたことがあるが、いずれも写真がないために確認記録とされていなかった。)



シロハラトウゾクカモメ (撮影・清田潔)



#### 大間木氷川神社

今年も大間木氷川神社にアオバズクのつがいが帰ってきました。5月初め（又は4月末）に鳴き声が聞かれそうです。5月21、22日に観察しましたが、日中は並んで枝にとまっています。低いところなので、肉眼でもよく見られます。昨年は4羽のヒナが育ってゆきましたが、今年も楽しみです。静かに見守ってやりたいものです。

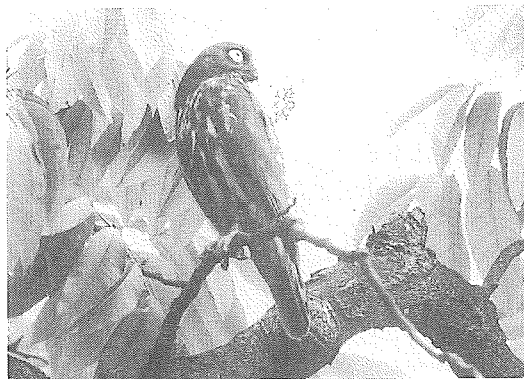
昨年と今年の写真を同封します。同じ鳥なのか、子供なのか、それとも別の鳥なのか。昨年と同様、1羽は目を丸くしており、1羽はつむりかげんでした。

（文・写真 為貞真人 浦和市）

#### 私のアオバズク

私のアオバズクの右目には、4時の方向に虹彩が切れたような傷があります。観察するようになって3年、今年も同じ樹洞で子育てにはげんでいます。以前は幼妻のかわいさがありました。今は熟女の魅力をふりまいておられます。（文・写真 山部直喜 越谷市）

#### 個人的きまま野鳥記 4 アオバズク



むし暑い夏の夜、ホッホッ、ホッホッと響く声。黒い空気を伝わってくる。

遠い記憶・・・子供のころ住んでいた家の裏の道を行くと、古い神社に突き当たった。寝苦しく蚊帳のなかに横たわっている耳で知らずに聞き、奥深いところにたくわえていた



（1987年5月30日）



（1988年5月21日）



生の声。ホッホッ、ホッホッ。

今、母と弟が住んでいる家にたまに遊びに行き、ふと気が向いて神社の急な石段をのぼる。

記憶のなかの景色にくらべ、樹木が何とまばらになってしまったことだろう。

あのときにその気になって探せばきっと会えただろうに、今になって探そうにも、影もない。

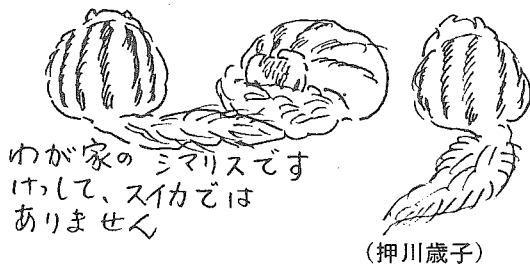
古い大きな樹木が残っている神社などでは、まだまだ緑のシンボル神として、アオバズクは生きている。アオバズクが生息していることがわかった杜とその周辺環境は、それだけで、ひととき深く、ひととき豊かに感じられる。バードウォッチャーのかたよった感覚だろうか。

（五条壇武男）

# 野鳥情報

- カンムリカイツブリ ◇5月1日、狭山湖で2羽(佐藤方博、俊之)。  
 ヨシゴイ ◇6月19日、浦和市秋ヶ瀬B区で1羽(福井 亘)。  
 アマサギ ◇6月4日、富士見市水子の柳瀬川右岸の田圃で2羽(田中富夫)。◇6月7日、浦和市秋ヶ瀬の大久保農耕地で6羽(田中富夫)。◇6月26日、坂戸市の高麗川、城山橋上流の樹上に1羽(増尾 隆)。  
 アオサギ ◇5月15日、狭山湖で1羽(佐藤方博、俊之)。◇6月19日、浦和市秋ヶ瀬B区で2羽(福井 亘)。  
 コガモ ◇5月15日、狭山湖で♂2羽♀1羽(佐藤方博、俊之)。◇5月16日、浦和市大谷口の遊水池で♂♀各1羽(近藤 崇)。  
 ハシビロガモ ◇5月23日、本庄市の阪東大橋下流で♂2羽♀1羽(町田好一郎)。  
 キンクロハジロ ◇5月15日、狭山湖で♂2羽(佐藤方博、俊之)。  
 ミコアイサ ◇6月23日、鴻巣市滝馬室の御成橋の500mほど上流の荒川で♂1羽(榎本秀和、みち子)。  
 ハチクマ・ツミ ◇6月5日、荒川村寺沢地区でハチクマとツミとの空中戦(杉本秀樹、福井恒人、海老原美夫)。  
 バン ◇5月17日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(町田好一郎)。◇5月20日、浦和市大谷口の遊水池で1羽(近藤 崇)。◇6月8日、浦和市の市立病院下の見沼田圃で1羽(箕輪真澄)。◇6月19日、浦和市秋ヶ瀬B区で成鳥1羽、幼鳥5羽(福井 亘)。  
 キアシシギ ◇5月15日、狭山湖で1羽(佐

- 藤方博、俊之)。  
 セイタカシギ ◇6月7日、浦和市秋ヶ瀬の大久保農耕地で成鳥1羽(田中富夫)。  
 アカエリヒレアシシギ ◇5月15日、狭山湖で3羽(佐藤方博、俊之)。  
 ツバメチドリ ◇5月28日午後4時、本庄市の阪東大橋下流の中州で♂♀各1羽。交尾を確認する(町田好一郎)。6月18日、同所で繁殖確認。成鳥12羽。うち2羽が抱卵中。ヒナの数5羽。6月19日午前5時、ヒナ5羽のうち3羽が、別の中州へ初フライト(町田好一郎、林 滋)。  
 コアジサシ ◇6月18日、本庄市の阪東大橋下流でヒナ3羽確認(林 滋、町田好一郎)。  
 キジバト(営巢) ◇4月12日、浦和市島の新大宮バイパスと志木県道交差点にかかる陸橋の鉄骨に営巢する(福井 亘)。◇5月12日、熊谷市大麻生駅前の湯本商店前のイチョウの木に営巢(諏訪隆久)。  
 カッコウ ◇6月4日、所沢市北野の白旗塚周辺でさかんに鳴く(大塚佳美)。◇6月11日、浦和市岸町5丁目目で1羽(白井昌一)。  
 ヒメアマツバメ ◇6月25日午前9時30分。本庄市の阪東大橋下流上空で2羽。アマツバメとクロスしながら、行ったり来たり(町田好一郎)。  
 アマツバメ ◇5月22日午後4時20分、本庄市の阪東大橋下流上空で120羽以上が、乱舞(町田好一郎)。  
 カワセミ ◇6月18日、浦和市秋ヶ瀬の放水路で3羽。うち1羽は幼鳥(福井 亘)。  
 アカショウビン ◇6月16日、大滝村の荒川本流と中津川の合流点付近で鳴き声(原田秀雄)。  
 コゲラ ◇6月18日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で3羽。そのうち1羽は幼鳥(福井 亘)。  
 ツバメ ◇6月16日、東松山市白小岩で白化の幼鳥が1羽(山寺)。  
 ビンズイ ◇5月1日、狭山丘陵の所沢市側で2羽(佐藤方博、俊之)。  
 サンショウクイ ◇5月1日、狭山丘陵の入間市側で1羽(佐藤方博、俊之)。  
 ヒレンジャク ◇5月10日、越谷市下間久里で33羽(神場真文)。



わか家のシメジです  
 けって、スイカでは  
 ありません

(押川歳子)

トラツグミ ◇ 6月16日午後10時頃、鴻巣市大間1丁目で飛びながら鳴く(榎本みち子)。  
 クロツグミ ◇ 5月1日、狭山丘陵の入間市側で♂4羽(佐藤方博、俊之)。  
 ヤブサメ ◇ 4月24日、狭山丘陵の入間市側で1羽(佐藤方博、俊之)。  
 コヨシキリ ◇ 5月31日、浦和市秋ヶ瀬B区で1羽(下田敏夫)。◇ 6月13日午後7時、本庄市の阪東大橋下流で1羽(林滋、町田好一郎)。  
 エゾムシクイ ◇ 5月1日、狭山丘陵の所沢市側で1羽(佐藤方博、俊之)。  
 センダイムシクイ ◇ 5月1日、狭山丘陵の所沢市側で1羽(佐藤方博、俊之)。  
 キビタキ ◇ 5月1日、狭山丘陵の入間市側で♂2羽(佐藤方博、俊之)。  
 オオルリ ◇ 5月1日、狭山丘陵の入間市側で♂2羽(佐藤方博、俊之)。

コサメビタキ ◇ 4月24日、狭山丘陵の入間市側で1羽(佐藤方博、俊之)。  
 サンコウチョウ ◇ 5月25日、大宮市日進町で鳴き声(森本國夫)。◇ 6月5日、荒川村寺沢地区で♂1羽(杉本秀樹、福井恒人、海老原美夫)。◇ 6月19日、所沢市中富で4羽ふかする(渡辺 敦他)。◇ 7月1日午前8時30分、ヒナ3羽巣立つ。1羽は死んだ為、♂がくわえて巣の外に運び去る(黒田佳子)。◇ 6月21日、鎌北湖付近で1羽(小川寛次、長島英治)。  
 コガラ ◇ 5月1日、狭山丘陵の入間市側で1羽(佐藤方博、俊之)。  
 クロジ ◇ 4月6日、狭山丘陵の入間市側で♂2羽(佐藤方博、俊之)。  
 マヒワ ◇ 5月1日、狭山丘陵の入間市側で2羽(佐藤方博、俊之)。

## 【8月の見どころ】

暑い日が続いておりますが、元気でウォッチングしてますか。

夏鳥たちの歌であれほどにぎやかだった野山も8月ともなると、さすがに静かになります。かわりに、水辺には、早くも秋を告げるどこか寂しげな詩が流れるようになります。そうです、もう南へ渡る途中のシギやチドリがやってくる頃になりました。

故高野伸二さんが愛したというアオアシシギの哀調をおびたフルート、キアシシギのさわやかな声、むし暑い夕暮れ時に、一陣のさわやかな風が吹き抜けるようなイソシギの涼しげな声など、どこか日本人好みのする歌声じゃないかなと思ったりします。

日沿後の富士見市の柳瀬川右岸では、ツバメのねぐら入り前の大乱舞が見られるはずで

表紙の写真

### ニュウナイスズメ (ハタオリドリ科)

5月の連休に4泊5日で長野県信濃町の黒姫高原で、野鳥の会のKさんのお世話になって鳥見三昧してきました。高原は若芽が動き出す直前、まだ残っている冬鳥や渡ってきたばかりの夏鳥が見られ、もう最高のコンディ

ション。鳥ばかりでなくミズバショウやアズマイチゲなどの春の草花も咲き乱れ、まさに黒姫良い所一度はおいでなのです。その中の会心の作がこの1枚。

(写真と文・登坂久雄)



タゲリ信玄とコイ姫



(押川歳子)

ですが、ツバメのねぐら入りと前後して、コウモリの乱舞も見られます。これは、アブラコウモリで、別名イエコウモリといって、建物のすきまや屋根裏などに住む種類です。コウモリの飛行は巧みで、双眼鏡で、それを追うのは、よほどのベテランでも困難だと思いますが、それでもアオバズクなどは、コウモリも餌にするというのですから、上には上がいるものです。

(藤原寛治)



### 初級ワシタカ類識別講座

期日：8月7日（日）  
 会場：浦和市立コミュニティーセンター3階  
 大会議室（浦和駅西口から県庁通りを  
 西進、中山道を左折して約600m右側）  
 時間：午後2時開会、午後5時閉会  
 講師：安西英明氏（前ウトナイ湖サンクチュ  
 アリレンジャー）  
 案内：秋から冬にかけては、ワシタカ類がよく  
 見られます。そこでこの夏、来るべき  
 季節の出会いを一層感動的なものにする  
 ために、識別の勉強をしっかりと  
 しておきませんか。ワシタカ類の宝庫で  
 長年過ごした安西氏が、ゆきとどいた  
 お手伝いをして下さいます。

### 熊谷市・大麻生探鳥会

期日：8月14日（日）  
 集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前  
 交通：秩父鉄道熊谷9：04発→大麻生9：12  
 着 / 秩父鉄道寄居9：01発→大麻生  
 9：19着  
 解散：午後1時ごろ  
 担当：諏訪隆久、鈴木忠雄、榎本秀和、林滋、  
 岡安征也  
 見どころ：秋のさきがけを探してみませんか  
 (I)。日差しの厳しい河原にも、シ  
 ギ・チドリ達が到着し始めています。  
 きれいな小鳥達が、山をおりてきてい  
 ないか、探してみましよう。

真夏の暑さの中、鳥達は秋の渡りを始めま  
 す。美しい羽の残るシギ・チドリや、山をお  
 りてきた夏鳥達を見つけて、少しだけ秋の気  
 分。日射対策に注意して、今月も探鳥会へ。

持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、  
 (もしあれば) 双眼鏡などです。

参加費は、一般=100円、会員及び中学生  
 以下=50円。特に指定無い限り予約申し込み  
 は必要ありません。小雨決行です。

夢中になり過ぎて、鳥を驚かしたり、植物  
 を荒らしたりなどしないように。いつもフ  
 ールドマナーをお忘れなく。

### 両神村親子キャンプ教室

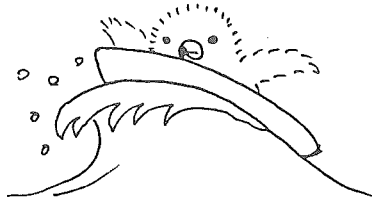
期日：8月20日（土）～21日（日）  
 集合：20日午後1時 国民宿舎両神荘  
 交通：秩父鉄道熊谷10:35発→御花畑11:46  
 発→三峰口12:07着、両神村営バス小  
 鹿野町役場行12:20発→薬師堂下車、  
 徒歩2～3分  
 解散：21日昼食後  
 共催：秩父愛鳥会  
 参加費：中学生以上7,000円小学生以下6,000  
 円、幼児実費（両神荘宿泊）  
 申込み：支部事務局（P.12 奥付参照）または  
 宮崎秩父愛鳥会会長宅  
 まで。  
 定員：先着50名。子供だけ、大人だけの参加  
 も受け付けます。  
 案内：餌台づくりに、河原でキャンプファイ  
 ヤー、花火大会、それにバーベキュー。  
 もちろん探鳥会、自然観察会も充分に  
 楽しんで、今年の夏休みの最高の思い  
 出に。



探鳥会へ  
 どうぞ!!

(鈴木加代子)





(鈴木高士)

### 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：8月21日(日)

集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または  
午前9時 浦和市立郷土博物館前  
(北浦和駅の場合、その後バス利用)

解散：午後1時ごろ

後援：埼玉県、浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、乗田  
実、手塚正義

見どころ：秋のさきがけを探してみませんか  
(II)。河原にシギ・チドリ、林縁に  
コムドリ、秋の使者達はもう来てい  
ます。秋めいてきた空を通り過ぎる姿  
は何ですか。

### 千葉県・谷津干潟探鳥会

期日：8月28日(日)

集合：午前9時30分 京葉線南船橋駅改札口  
交通：武蔵野線武蔵浦和8:20発→南浦和8  
:24発→西船橋9:08着、京葉線乗換  
え、9:12発→南船橋9:17着

解散：午後2時ごろ

共催：関東地区各支部の合同探鳥会

担当：海老原美夫、杉本秀樹

見どころ：見慣れない鳥達、見慣れない人達  
を存分にどうぞ。感動的にくちばしが  
長いのやら、名前に修飾語がいくつも  
くつつくのやら、海辺のシギ・チドリ  
が山ほど。他支部の人達も山ほど。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：8月27日(土) 午後1時～3時ごろ  
会場：浦和市立コミュニティーセンター2階  
第1講座室(浦和駅西口から県庁通り  
西進、中山道を左折し約600m右側)  
案内：夏の最後の思い出にも……袋づめを。

### 野鳥写真クラブ定例会

とき：8月27日(土) 午後3時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：夏休みに海辺や山で撮りためた、自慢  
の写真を一挙公開、といきませんか。  
お待ちしております。

### 神奈川県・多摩川河口探鳥会

期日：9月10日(土)

集合：午前9時30分 京浜急行大師線小島新  
田駅前

交通：京浜急行線品川8:59発→京急川崎9  
:15着、大師線に乗り換え、9:17発  
→小島新田9:27着

解散：午後2時ごろ

担当：横山みどり、杉本秀樹、中島康夫、楠  
見邦博

見どころ：シギ・チドリ、秋の賑わいの時。  
残暑厳しい時期ですが、東京湾の干潟  
は今が一番面白い時。この機会に海辺  
のシギ・チとなじみになりましょう。  
珍しいお客さんにも会えるかも。

### 熊谷市・大麻生探鳥会

期日：9月11日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:04 → 大麻生9:12  
着/ 秩父鉄道寄居9:01発→大麻生  
9:19着

解散：午後1時ごろ

担当：諏訪隆久、鈴木忠雄、榎本秀和、林滋、  
岡安征也

見どころ：河原に秋風は吹き出しているでし  
ょうか。快適な散歩、となるかどうかは  
請け合えませんが、鳥達の方は確実に  
秋。河原の涼しげな声と、林や草の上  
の涼しげな瞳が待っています。

9月18日(日) 浦和市・三室地区探鳥会

9月23日(祝) 寄居町・鐘撞堂山探鳥会

9月25日(日) 浦和市・秋ヶ瀬探鳥会  
本庄市・阪東大橋探鳥会

10月9日(日) 北川辺町・渡良瀬遊水池探鳥会

# 行事報告

5月21～22日(土～日) 長野県 軽井沢

☑ 25人 **天気** 小雨 ☕ コジュケイ キジ  
 キジバト ジュウイチ カッコウ ツツドリ ホト  
 トギス ヨタカ アマツバメ アカゲラ コゲラ  
 イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ ビンズイ  
 ヒヨドリ モズ カワガラス ミソサザイ コマド  
 リ ノゴマ コルリ ルリビタキ マミジロ トラ  
 ヅグミ クロツグミ アカハラ ヤブサメ ウグイ  
 ス エゾムシクイ センダイムシクイ キビタキ  
 オオルリ サメビタキ コサメビタキ エナガ コ  
 ガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウ  
 カラ メジロ ホオジロ アオジ イカル スズメ  
 ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラ  
 ス(50種) あいにくの小雨となったが、さすがは  
 軽井沢。夏鳥を十分に楽しめた。何種類もの鳴き声  
 の真似をする芸達者なクロツグミもいて皆びっくり。  
 運のいい人はノゴマを見ることができた。遠く八丈  
 島からの参加者もいて、島の話も聞けた。

5月22～23日(日～月) 両神村 両神山

☑ 19人 **天気** 曇後雨 ☕ コジュケイ キ  
 ジバト アオバト ジュウイチ ツツドリ アマツ  
 バメ ヤマセミ アオゲラ アカゲラ オオアカゲ  
 ラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ セ  
 グロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ  
 コマドリ コルリ マミジロ ヤブサメ ウグイス  
 メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシクイ  
 キクイタダキ オオルリ コガラ ヒガラ ヤマガ  
 ラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジ  
 ロ ホオジロ スズメ ムクドリ カケス オナガ  
 ハシボソガラス ハシブトガラス(42種) 雨のせい  
 かコノハズクの声は聞けなかったが、すばらしい所  
 だった。雨の中を下山しながら、お天気の良いとき  
 にまた来てみたいと思っていたのは、僕一人だけ  
 ではなかっただろう。

5月28日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

**がんばってくれた人** 青沼俊雄、阿部幸男、榎本秀  
 和、海老原教子、海老原美夫、大木慎子、草間和子、

楠見文子、近藤 崇、佐藤晶人、登坂久雄、中里隆  
 介、藤野富代、松井昭子、松井昭吾、森 静子、吉  
 田二三子、渡辺 敦、渡辺孝章(19人)

5月28日(土) 野鳥写真クラブ定例会

**集まった人** 23人 **作品発表した人** 8人



タンチョウ (撮影: 阿部幸男)

5月29日(日) 上尾市 丸山公園

☑ 46人 **天気** 晴 ☕ カイツブリ コサギ  
 カルガモ コジュケイ キジ キジバト カッコウ  
 カワセミ コゲラ ツバメ ヒヨドリ モズ オオ  
 ヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワ  
 ラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラ  
 ス(21種) 風さわやかな5月なんて言うけれど、風  
 はなし。朝から暑いねの連発。ギョギョシギョギョ  
 シと鳴くオオヨシキリを間近に見る。暑いのに元気  
 がいい。途中の木陰で一休み。終りに近づく頃、キ  
 ジのつがいが出て皆さん感激。暑い暑い一日。

6月5日(日) 荒川村 日野溪谷

☑ 61人 **天気** 晴 ☕ ハチクマ クマタカ  
 コジュケイ キジ キジバト ホトトギスSP カ  
 ワセミ アカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ  
 キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カ  
 ワガラス ウグイス センダイムシクイ サンコウ  
 チョウ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラ  
 ヒワ イカル スズメ ムクドリ カケス オナガ  
 ハシボソガラス ハシブトガラス(30種) 行事案内

の「アカショウビンは期待しないでください」の裏を読んだのか、驚くほどの参加者。リーダーからの御託宣どおり本当に出なかったけれど、クマタカも上空に姿を見せし、満足だった。

6月11～12日(土～日) 栃木県 奥日光  
囚 32人 [天気] 曇 雫 マガモ トビ ノスリ オオジシギ キジバト ジュウイチ カッコウ ツツドリ ホトトギス アオバズク アマツバメ アカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ セグロセキレイ ビンズイ モズ カワガラス ミソサザイ

コマドリ コルリ ノビタキ マミジロ クロツグミ アカハラ ヤブサメ ウグイス メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシクイ キクイタダキ キビタキ オオルリ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ ホオジロ ホオアカ アオジ ウソ イカル ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (55種) 例年になく多いノビタキ、開花の遅れていたヤシオツツジやジャクナゲ、野鳥の声の聞こえるホテルの露天風呂などいろいろ楽しめた。

## 参加者の声

### コマドリ症候群

黒田佳子(新座市)

「両神山はいいよ。仕事をサボって行くだけの価値はある」周囲のそんな声にのせられ、しっかり仕事をサボって参加した両神山探鳥会。しかし、そんな日頃の行いのせい、天気はあいにく下り坂で、白井差に着く頃には本格的に降り出してしまいました。こりゃ探鳥どころじゃないななどと思いながら歩いていると、オオルリ、ツツドリ、ジュウイチなど結構たくさんの鳥の声が聞え、これで天気さえ良かったらと日頃の自分の悪行(?)を後悔するばかりでした。清滝小屋に着くと、さっそく宴会が始まり、夕食後もしばらく鳥話(?)を楽しんだ後、鳥

合わせ。今回の鳥合わせは今までとは一味違い、本当に勉強になりました。皆さん、博学なんですね。

翌朝はコマドリの声で目が覚めました。コマドリさんに起こしてもらえるなんて、私ってなんて幸せ者などと思いながら、窓の外へ耳を傾けると、他にもマミジロ、エゾムシクイ、コルリなど様々な鳥の声を聞くことができ、しばらく布団の中で野鳥のコースを楽しみました。中でも清滝小屋周辺に響きわたるコマドリの声はもう最高！おかげで下山してからもしばらくの間はこの声が耳から離れず、ちょっとした物音が全てコマドリの声に聞こえてしまうという、とんでもない後遺症が残りました。でも、何はともあれとても楽しい探鳥会でした。皆さん、本当にありがとうございました。

### 満願成就

下田 宏(草加市)

雨が心配された梅雨の合間、唐松の新芽とイワツバメの乱舞が私たちの奥日光探鳥会を迎えてくれました。いつもながら親切なリーダーの諸注意にうなずきながら新緑の湯ノ湖畔へ歩み始めるとメボソムシクイ、ウグイスの聞き慣れた鳴き声が静かな木々の間から聞こえ始めました。以前に訪れた時に比べて、心なしか潮水が汚れてきているように思われます。環境破壊が進んでいることに恐さを感じつつ、野鳥たちのネグラが損われないようにと祈りながら目と耳に神経を集中させる。そのとき、キビタキだとの声に我を忘れて目を凝らす！キビタキ！あこがれの鳥影である。それは一瞬にして終わってしまった。いつしか日差しが木もれ日となって影をつけてきた。戦場ヶ原、木道でのノビタキ、モズの姿をじっくりと堪能しながら、のんびりと光徳へと向う路を

たどると今夜の宿アストリアホテルも間近でした。こざい部屋、豪華な夕食、キビタキが聞こえる露天風呂、そしてはげやかな懇親会、坊主の夜探とにぎやかなホテルでの一夜が明けると早朝ウォッチング。アカゲラ、ヒガラ、シジュウカラが朝の挨拶をしてくれました。

湯滝からの2日目の出発直前にオオルリが稍で出迎えてくれました。さがしてくれたメンバーに感謝感謝！実を言えば、今回の探鳥会はオオルリとキビタキへの初対面をひそかに期待しての参加でした。これで満願成就！ミソサザイ、カワガラスが川面にかわいい姿を写してくれる。そして青木橋でおにぎりをほおぼる間にもアカゲラ、アカハラ、ビンズイと忙しく顔を出してくれる心にくいばかりのサービスに大満足の探鳥会でした。

奥日光の大自然、やわらかい日差しをくれた太陽、そして親切なリーダー、参加者の皆様ありがとうございました。

## 連絡帳



### 第5回初級リーダー研修会

今年こそ、支部の活動を支えるボランティアに、あなたも加わりませんか。探鳥会で受け身の立場から、それを動かしていく立場のほうにうつりませんか。

ほんの一步の立場の違いが、あなたの人生を、より充実したものにかえていきます。  
参加資格：支部会員であること。必要なのは鳥の識別能力より、『熱意』です。

日時：9月4日(日) 午前9時～午後4時

場所：浦和市立コミュニティセンター

申込み：事務局または中島普及部長(☎ )へ。

### リーダー派遣

6月10日(金)～11日(土)に所沢市の公害研修所で開かれた環境セミナー(環境庁主催、全国の行政担当者ら120人参加)で、海老原美夫副支部長・福井恒人幹事が自然観察の講師をつとめました。6月18日(土)奥日光で開かれた鳩山町中央公民館主催の探鳥会で、榎本秀和幹事・海老原副支部長・福井幹事がリーダーをつとめました。

### 大量売り上げ

県自然保護課から「野鳥とふれあう学校」の教材として、ビデオテープ、フィールドガイドなど合計100万円をこえる注文があり、6月27日納品しました。

### ありがとうございます

●次の方々からご寄付をいただきました。

題字『しらこぼと』=山下静一(財)日本野鳥の会会長、イラスト見出し=鷹尾正済(p5, 6, 12, 表紙デザインも)・鈴木加代子(p8)・渡辺周司(p10)

今井昌彦 10,000円、榎本秀和 5,000円、海老原美夫 20,740円、笠井実 4,000円、金子真理 3,000円、川口鋳物工業協同組合 50,000円、鈴木忠雄 10,000円、手塚正義 620円、福井恒人 20,740円

●次の方々からは支部賛助会費(通常の会費との差額分 8,000円)をいただきました。

今井昌彦、鈴木忠雄、細田早苗、宮崎章次。  
(いずれも50音順、敬称略)

### 会員数は

7月20日現在 903人です。

### 活動報告

6月2日 本部の飯塚職員来局。環境セミナーについて打ち合わせ。

6月19日 普及部会議。編集会議。

6月19日 役員会議(司会・森本國夫、各部の報告、10月初めまでの探鳥会予定などの再検討、総会議案の原案検討、その他)。

6月20日 『しらこぼと』7月号校正(大武昭雄、西城戸司)。22日も(森本國夫)。

6月26日 総会後、役員会議(司会・海老原美夫、支部長・副支部長・監事の選出、奥鬼怒天然林保存署名運動、その他)。

6月27日 『しらこぼと』7月号発送。



### 編集後記

衛生や美観が命の、食物や服を扱っている店の軒先で、すすく育つツバメの子供達を見ていると営業上の損得ぬきの心遣いに心打たれます。けれども、あらゆる人に対して、こんな優しさを期待してはいけないのですよね。人間にだって生活があるのだから。

都合で、今月号限りで編集部を去ることになりました。2年あまりの間の、御迷惑へのお詫びと、御支援への感謝を申し上げます。

(鈴木高士)

『しらこぼと』 1988年8月号(第51号)

定価 100円(会費に含まれます)

発行人 今井昌彦 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 ☎ 0488(32)4062

〒 336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)